令和８年度　　日野市立 日野第三小学校　　経営重点計画　　自己評価シート　　令和8年6月公表

★学校の教育目標　○　よく考える子ども　◎　思いやりのある子ども　○　体をきたえる子ども　○　最後までやりぬく子ども

★目指す学校像（ビジョン）

【目指す児童像】　○　集団の中で自分がどうあるべきか考え、行動できる児童　○　自ら問いをもち、思考・判断・表現を駆使して生かせる児童　○人との関わりや地域を大切にする児童

【目指す学校像】　○　互いに切磋琢磨できる学校　○　生き生きと日々の実践に笑顔で励む学校　○　地域と共に歩む学校

【目指す教師像】　○　一人一人の児童を大切にする教師　○　教職員・保護者・地域が力を合わせ支え合う教師

★重点計画の概要

「みんなでつくる、みんなのための学校」プロジェクト
　コミュニティ・スクールとして、子供を真ん中にして、誰もが安心して自分の力を発揮できる学校を学校と家庭、地域とともにつくることを目指す。

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準	
				取組指標	成果指標
みんなが当事者として、自ら歩む道をつくる	楽しくわかる授業を創造し、主体的対話的に深く学ぶ授業を展開する	○　ねらいを明確にした意図的・計画的な授業を展開する ○　学習者用端末を効率的に活用し、一人一人の確かな学力の向上を図る	○　児童の実態に即した教材研究を行い、身に付けさせたい力と学習のゴール地点を明確にした授業を行う ○　教員の専門性を生かした授業交換・単元交換授業を実施する ○　学習者用端末やＩＣＴ機器を授業に積極的に活用し、できるわかる授業を展開する	４　考え、議論する内容を目指し、交換授業を月に２回以上実践した教員が９０％以上	４　「学習内容が分かり、できるようになった」と答えた児童が９０％以上
				３　考え、議論する内容を目指し、交換授業を月に２回以上実践した教員が８０％以上	３　「学習内容が分かり、できるようになった」と答えた児童が８０％以上
				２　考え、議論する内容を目指し、交換授業を月に２回以上実践した教員が７０％以上	２　「学習内容が分かり、できるようになった」と答えた児童が７０％以上
				１　考え、議論する内容を目指し、交換授業を月に２回以上実践した教員が７０％未満	１　「学習内容が分かり、できるようになった」と答えた児童が７０％未満
	学びを児童主体に移譲し、自らの意思と他者の考えを取り入れ、協働して、より自発的に行動できる力を育む	○　児童が自主的・主体的に活動できる様々な場を設定し、自ら考え、判断し、表現できる力を身に付けられるようにする	○　特色ある学校づくりを推進するため、児童がもっている力を発揮し、他者と協力し、学校行事への参画・学校のきまりの改善・なかよし班活動の充実など、自発的に活動できる指導・支援を行う	４　児童が自主的に活動できるような指導支援を年に３単元以上行った教員が９０％以上	４　「みんなのことを考えて活動することができた」と答えた児童が９０％以上
				３　児童が自主的に活動できるような指導支援を年に３単元以上行った教員が８０％以上	３　「みんなのことを考えて活動することができた」と答えた児童が８０％以上
				２　児童が自主的に活動できるような指導支援を年に３単元以上行った教員が７０％以上	２　「みんなのことを考えて活動することができた」と答えた児童が７０％以上
				１　児童が自主的に活動できるような指導支援を年に３単元以上行った教員が７０％未満	１　「みんなのことを考えて活動することができた」と答えた児童が７０％未満
みんなの多様な学びとしあわせをつくる	自ら課題を設定し、興味関心を高め、解決しようとする力をさらに次への課題に結び付けていく力を育む	○　自ら問いをもち、思考・判断・表現したことを生かせる指導の工夫を取り入れた授業を展開する	○　学ぶ意欲を育むため、個に応じた学習課題を設定し、興味関心を高めさせる ○　一人１台学習者用端末を利活用し、授業内容だけでなく家庭学習においても、課題追究できる場面を設定する	４　学習者用端末やICT機器を週に５回以上活用した授業を実践した教員が９０％以上	４　「学習者用端末やICT機器を使った授業は学習に役立つ」と答えた児童が９０％以上
				３　学習者用端末やICT機器を週に５回以上活用した授業を実践した教員が８０％以上	３　「学習者用端末やICT機器を使った授業は学習に役立つ」と答えた児童が８０％以上
				２　学習者用端末やICT機器を週に５回以上活用した授業を実践した教員が７０％以上	２　「学習者用端末やICT機器を使った授業は学習に役立つ」と答えた児童が７０％以上
				１　学習者用端末やICT機器を週に５回以上活用した授業を実践した教員が７０％未満	１　「学習者用端末やICT機器を使った授業は学習に役立つ」と答えた児童が７０％未満
	異年齢集団による活動を実施し、互いを思いやる心で協力して活動しようとする意欲、学校の一員としての所属感・連帯感を育てる	○　高学年を中心に、「何を」「なぜ」「どのようにしたいのか」を問いながら、企画力・判断力・創造力・表現力を向上させる	○　なかよし班活動を中心に、異学年・異年齢での交流の機会を増やし、充実する。	４　異年齢と交流した授業を年に３回以上できた教員が９０％以上	４　「異なる学年の人と活動することは楽しい」と答えた児童が９０％以上
				３　異年齢と交流した授業を年に３回以上できた教員が８０％以上	３　「異なる学年の人と活動することは楽しい」と答えた児童が８０％以上
				２　異年齢と交流した授業を年に３回以上できた教員が７０％以上	２　「異なる学年の人と活動することは楽しい」と答えた児童が７０％以上
				１　異年齢と交流した授業を年に３回以上できた教員が７０％未満	１　「異なる学年の人と活動することは楽しい」と答えた児童が７０％未満
社会と未来に開き、みんなでつくる	集団活動の中で、自分の役割や自分のよさを発揮し、話合い活動を通して、よりよい人間関係や学校生活を築こうとする態度を育てる	○　校内研究を通して、話し合う場面を意図的に構成した学びの工夫を取り入れた授業を展開する	○　児童自らが学びを深めていけるようにするために、特別活動（話合い活動）を基本に、他教科でも自らの考えを伝え、意見を交わし、まとめたり再考したりする活動を取り入れた授業を展開する	４　話合いを基に活動計画を立てる授業を実践した教員が９０％以上	４　「話合いを通して、他者の意見が役に立った」と答えた児童が９０％以上
				３　話合いを基に活動計画を立てる授業を実践した教員が８０％以上	３　「話合いを通して、他者の意見が役に立った」と答えた児童が８０％以上
				２　話合いを基に活動計画を立てる授業を実践した教員が７０％以上	２　「話合いを通して、他者の意見が役に立った」と答えた児童が７０％以上
				１　話合いを基に活動計画を立てる授業を実践した教員が７０％未満	１　「話合いを通して、他者の意見が役に立った」と答えた児童が７０％未満
	保護者、地域、近隣施設や異校種などとの交流を通して、自然や地域を愛する豊かな心、思いやりの心を育てる	○　他校種と連携し、交流を生かしたインクルージョン教育の推進を図る ○　コミュニティ・スクールとして児童のもつ様々な興味関心を引き出す企画を実施する ○　学校から情報を発信し、本校の教育活動について理解を促進する	○　多様性の理解を深めるために、異校種との交流授業や地域を利活用した授業を全ての学年で設定する ○　教育活動の充実を図るため、学校行事、体力テスト、学習での補助などの活動支援を依頼する ○　学校の様子を知らせ、教育活動を理解してもらうために、ホームページ、C4th Home＆Schoolを活用し、積極的に発信する	４　地域に関する学習や交流、体験活動を年に３回以上実施した教員が９０％以上	４　「地域に関する学習や交流、体験活動が楽しい」と答えた児童が９０％以上
				３　地域に関する学習や交流、体験活動を年に３回以上実施した教員が８０％以上	３　「地域に関する学習や交流、体験活動が楽しい」と答えた児童が８０％以上
				２　地域に関する学習や交流、体験活動を年に３回以上実施した教員が７０％以上	２　「地域に関する学習や交流、体験活動が楽しい」と答えた児童が７０％以上
				１　地域に関する学習や交流、体験活動を年に３回以上実施した教員が７０％未満	１　「地域に関する学習や交流、体験活動が楽しい」と答えた児童が７０％未満

※評価指標・評価基準は、２の段階を現状としています。